

生きる力の根っ子となる道徳性を育てよう

昭和女子大学 押谷由夫

1 子どもを信頼し、かかわり続けること—道徳教育を推進する基礎基本

(1) 子どもへの絶対的信頼感

- ・子どもたちはよりよく生きようとしている

- ・子どもたちは必ずよくなる

(2) 愛情のあるかかわり

- ・子どもの味方になる

- ・子どもを包み込む

- ・よりよく生きようとする力を引き出す

(3) 教師自身の忍耐力と力量と協力体制の育成

- ・教師としての使命感

- ・社会的変化や子どもの変化への対応

- ・ネットワークづくり

2 豊かな自分づくりを支え励ますこと

※ 生き方の自立を柱に生活の自立、学習の自立を図る

(1) 生活の自立

- ・生活習慣を身につける

- ・生活を楽しむ

- ・生活を創る

(2) 学習の自立

- ・学習の理解、習得（基礎学力の習得）

- ・学習を楽しむ

- ・学習を創る

(3) 生き方の自立

- ・生きる意味の自覚

- ・ 道徳的価値の追究
- ・ 生きがい感の感得と確立

3 道徳性育成の基礎基本をおさえよう

(1) 愛に満ち満ちた場をつくろう

- ア 愛の原点 親の新生児へのまなざし、姿勢・・・いのりの心
- ・ 自分より子ども（相手）を優先的に考える
 - ・ 子ども（相手）をまるごと認める
 - ・ 子ども（相手）が困っていれば代わってあげたいと思う（感情を共有する）
- イ 笑顔、元気、真心
- ・ 笑顔で元気に心（願い）を込めて誠実に子どもと接する
- ウ 温かいことばがけ
- ・ 「ありがとう」「ごめんね」「どうしたの」「よかったね」
 - ・ 「よくやったね」「いっしょにがんばろうね」

(2) 感謝する心を育てよう

- ア いのちへの感謝
- ・ 与えられたいのちへの感謝
 - ・ いのちを支えてもらっているものへの感謝
 - ・ 生きていることへの感謝
- イ お世話になった恩に感謝し報いる（家庭愛、学校愛、地域愛）
- ・ 親孝行（子孝行）
 - ・ 感謝し祝う（誕生会、行事、祭り）
 - ・ ご恩返し（お世話になった人々や社会の役に立つことをする）
- ウ 心に貯金（感謝されることをする）
- ・ 相手が「ありがとう」ということをする
 - ・ 毎日ひとつは貯金できるようにする
 - ・ 心の貯金を話し合う

(3) 夢（大志）を育てよう

ア 未来への夢や希望をふくらませる

- ・大人が夢を語る
- ・未来への危機意識をあおるのではなく希望の光を実感できるようにする
- ・成長することを楽しみだと思えるようにする

イ 常に前向きに生きる

- ・明けない夜はない
- ・よさに目を向ける
- ・あせらず、あきらめず、楽しみながら

ウ 行による自分づくり

- ・苦勞するのが人生（人生は重き荷を背負いて遠き道を行くがごとし）
- ・意義を見いだす（やっていることの意義を見いだせば苦しみに耐えられる）
- ・今から始める（今を変えなければ何も変えられない）

4 『心のノート』を活用して学校・家庭・地域が一体となった道徳教育を進めよう

(1) 『心のノート』の世界を生活の場に広げよう

- ・学校の環境づくり
- ・家庭の文化づくり
- ・地域への愛着
- ・学校・家庭・地域を心のふるさとに

(2) 日常的に価値意識を育てよう

- ・日常の生活や学習活動を道徳的価値の追求と結びつける
- ・自分を振り返る視点を身につける
- ・心の成長を実感する

(3) 道徳の時間と響き合わせよう

- ・日常の生活や学習活動と道徳の時間を価値意識でつなげる
- ・未来を見据えて価値意識をはぐくみ日常の生活や学習活動とつなげる